

水産物部初市の入荷数量

中央卸売市場
令和4年1月5日

1. 入荷予定数量(豊洲市場) *下段()は全市場入荷予定数量

年月日	令和4年1月5日 水曜(A)	令和3年1月5日 火曜(B)	前年比 A/B
入荷数量	874.6 (911.4) トン	883.2 (928.9) トン	99.0 (98.1) %

2. 主要品目の入荷予定数量(豊洲市場)

品目	入荷数量(トン)		
	令和4年 1月5日(A)	令和3年 1月5日(A)	前年比 A/B(%)
あじ	13.9	7.4	187.8
さば	7.7	8.5	90.6
いわし	5.7	5.3	107.5
するめいか	5.4	8.3	65.1
はまち	21.5	9.5	226.3
かき(むき)	2.8	3.4	83.2
冷凍めばち	35.8	41.2	86.7

3. 概況

本年初市の全市場の入荷予定数量は、前年比1.9パーセント減の911.4トンであった。
豊洲市場の鮮魚類の入荷は、前年と比べて11.9パーセント減の139.9トンで、相場は前年と比べて堅調。品目別では、アジが軟調、サバは堅調、イワシはしっかり、スルメイカは大幅高、カツオは上伸、ブリが上伸、メジが小高い。
生鮮マグロ類の入荷は307本で前年(283本)より増加した。今年の最高価格は青森県大間産・生鮮マグロ(211.0kg)がkgあたり80,000円だった。冷凍マグロの入荷は、984本で前年(1,149本)より減少した。
天然物は定番の津軽海峡物に加えて気仙沼、塩釜などの三陸産が豊富だったため、計233本と前年初市の128本を大幅に上回った。例年、人気が集まる大間産は、高値が出やすい200キロ超が2本と少なかったが、高値は前年比2万円安のキロ8万円と伸び悩んだ。
養殖物は13本(前年16本)とやや減少。和歌山産の1本にキロ2,000円が付いたが、他の魚はすべてできず。
輸入の天然物はボストン産が1本(前年ギリシャ産3本)のみだが、潤沢な国内物に押されて、相場はできず。養殖の主力はメキシコ産で5本(前年43本)に急減したが、天然物と同様にできず。

【連絡先】

<上記内容に関する事>
中央卸売市場 豊洲市場水産農産品課 水産品担当 03-3520-8261
<ホームページに関する事>
中央卸売市場 総務課 広報担当 03-5320-5720